新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵作品データベースの作成について

佐　藤　克　己

1　はじめに

近代美術館に勤務してもうすぐ1年が過ぎようとしている。勤務開始当初はすばらしい所蔵品の数々と学芸員の高い専門性による仕事ぶりにただ圧倒されていた。しかし、しばらくして、いくつかの疑問も出てきた。例えば、近代美術館・万代島美術館の正確な所蔵作品の点数をすぐに分かる方法はないのか、常設展の作品解説を担当者がその都度最初から作らなくてよい方法はないのか、等である。

近代美術館には、来館者用作品データベースがある。しかし、これは来館者サービスとして主立った作品しか登録しておらず、作品数は1,655点に過ぎない。

そこで、職員のための近代美術館・万代島美術館が所蔵するすべての作品データベースを新たに構築する必要があると感じてきた。しかし、これまでにも学芸課で何度も所蔵作品データベースを作成しようとして、その度に途中で挫折してきたという話を聞き、容易でないことを痛感した。それとともに、それであればなおのこと、所蔵作品データベースの作成が必要であることも痛感した。

2　所蔵作品データベース作成に使用するアプリケーションソフトについて

所蔵作品データベースを作成するにあたりまず問題となったのは、パソコン上でそのアプリケーションソフトを使うかであった。主なデータベースソフトのメリット・デメリットは、次のとおりである。

ソフト名	メリット	デメリット
マイクロソフト社 エクセル	○多くの人が使っており、使いやすい。	○多くの項目を設定すると、見づらく使いづらい。
マイクロソフト社 アクセス	○多くの解説書が出ており、ソフトの値段もさほど高くない。	○ SQL などの専門用語の知識が必要である。
ファイルメーカー社 ファイルメーカープロ	○初心者にも使いやすく、画面レイアウトの設定・変更も容易である。	○解説書が多く出ていない。 ○アクセスと比較して、多少値段が高い。
My SQL Post Gre SQL	○フリーソフトのため、ソフトの経費がかからない。	○プログラミングの知識が必要である。

こうしたメリット・デメリットを踏まえ、今回使用するアプリケーションソフトはファイルメーカープロにすることとした。

3　所蔵作品データベース作成における基本事項について

所蔵作品データベースを作成するにあたり、以下の点を基本事項として作成することとした。

⑴　所蔵作品データベースの作成は、このデータベースを活用して近代美術館・万代島美術館職員の業務の効率化を図ることを目的とする。

⑵　作品登録の順番は、作品管理簿に基づくこととする。

⑶　作品管理簿で1作品とされていても、作品を見てさらに細分化することも可とする。例えば、歌川広重の《東海道五十三次》は355番となっているが、1枚の版画を1作品と数え、355-001、355-002などとする。土田麦遷の画帳《ヨーロッパ》は365-024となっているが、1ないし2ページの素描作品を1作品と数え、365-024-001、

365-024-002などとする。

この数え方で算出した所蔵作品数は、2010年1月末段階で5,317である。

(4) 来館者用データベースの項目をすべて引き継ぐが、所蔵作品に関する情報を網羅したデータを作成する。具体的には、作品管理簿、来館者用データベース、作品カード、ネガ・ポジに関するデータ、収蔵庫に関するデータ等である。

1月末段階で、データ項目数は画像4項目を含む108項目で設定してある。この数は今後増やすことも可能である。

4 所蔵作品データベースでできること

所蔵作品データベースでは、以下の作業ができるようになっている。(図1)

(1) 作品を調べる

1つ目は、作品について調べる機能である。検索画面を通して、調べたい作品に関する情報を「作品簡易表示画面」(図2)で見ることができるようになっている。画像を大きく表示したい場合は、「画像拡大表示画面」(図3)で見ることができるようになっている。さらに、108項目すべてを表示する「作品詳細表示画面」(図4)で見ることもできるようになっている。

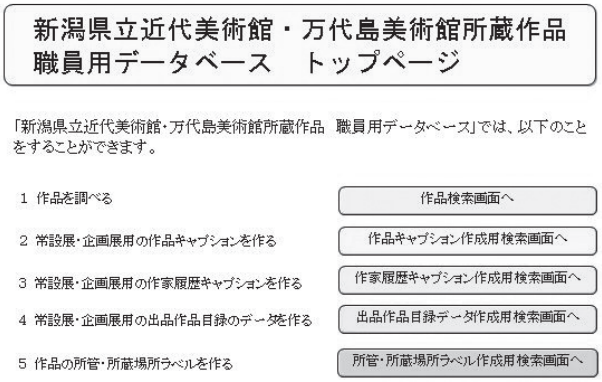

図1

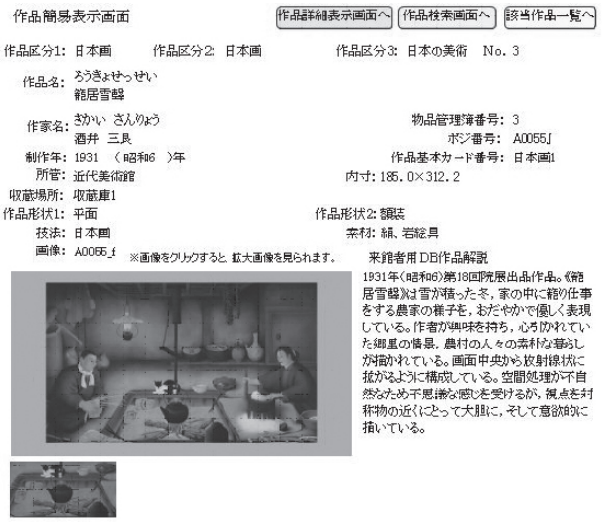

図2

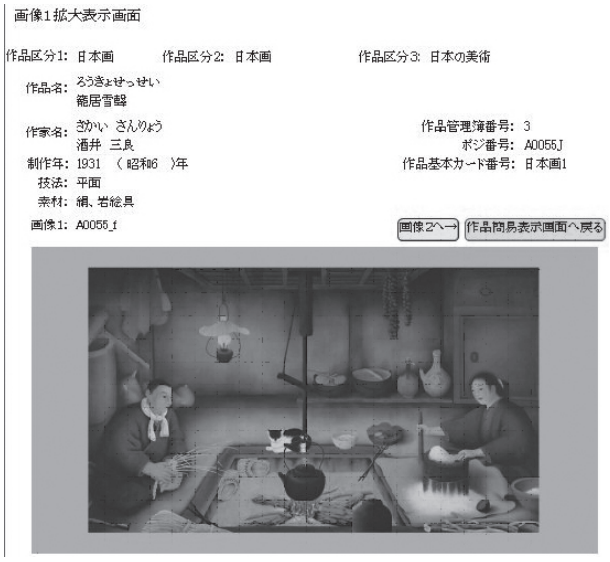

図3

図4

(2)　常設展・企画展用の作品キャプションを作る

2つ目は、常設展・企画展用の作品キャプションを作る機能である。これまでその都度担当者が作成していた作品キャプションを、過去のデータを参考にして効率的に作成できるようにした。

検索画面を通して表示したい作品を「作品キャプション作成画面1」(図5) に表示する。この画面で留意したのは、「選ぶ」ボタンを設定したことである。このボタンをクリックし、「『選ぶ』のみ表示」をクリックすると、選んだ作品のみ表示できるようにした。この「選ぶ」ボタンはどの作品区分で検索し、何回繰り返しても必ず選んだ作品のみ表示できるようにした。これで、常設展・企画展で必要な作品を漏れなく選ぶことが可能となった。

こうして作成するキャプションの作品が決定したら、「作品キャプション作成画面2」(図6) に移動する。「作品キャプション作成画面2」の右には過去の常設展・企画展での作品解説も表示しており、これらの文章を参考に「作品キャプション作成画面2」の最下段の「常設展・企画展作品解説作品」を入力する。そして、「作品キャプション確認画面」(図7) で確認し、よければ「PDFに出力する」をクリックする。

PDFのままでよければ印刷して表示できるし、レイアウトを変更したければPDFからWORDに変換するソフトを使って、さらに作業を進めていく。

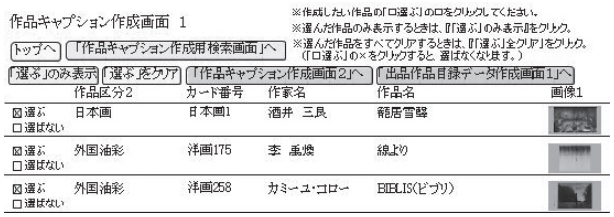

図5

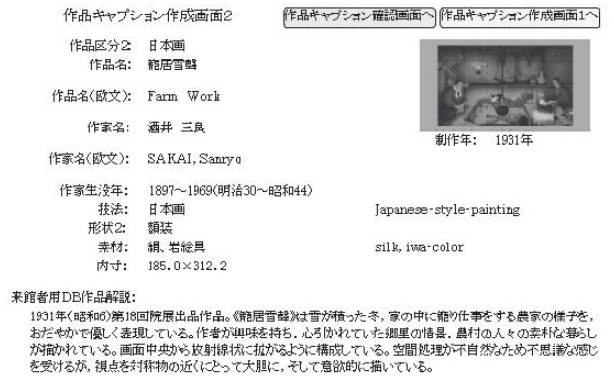

図6

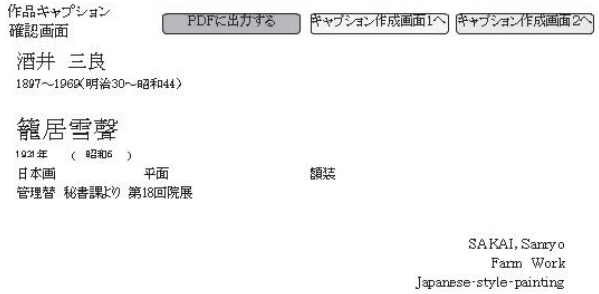

図7

⑶　常設展・企画展用の作家履歴キャプションを作る

「⑵　常設展・企画展用の作品キャプションを作る」と流れは同様である。

⑷　常設展・企画展用の出品作品目録データを作る

常設展・企画展用の出品作品目録も、これまではその都度担当者が作成していた。これを、データベースで速やかに作成しようとする機能である。

検索画面を通して、出品したい作品を「出品作品目録データ作成画面1」(図8) に表示する。この画面にも「選ぶ」ボタンを設定した。これで、何回でも検索して必要な作品すべてを表示させることが可能となった。

「出品作品目録データ作成画面面2」(図9) に進み、よければ「EXELで出力する」をクリックする。

⑸　作品の所管・所蔵場所ラベルを作る

企画展・常設展で作品を収蔵庫から出し入れしたり作品確認をしたりする際に、必要に応じて作品ラベル (図10) を収蔵庫に掲示する。今年度はまだ実施できなかったが、次年度は実施する予定である。

5　成果と課題

1年間かけて作品管理簿に記載されているデータを電子データ化し、所蔵点数を区分・作家別に数えることができるようになった。また、ポジフィルムの画像データも登録することができた。これが、今年度の成果である。

しかし、来館者用データベースに登録されていない作品の詳細なデータや画像データの登録をいかに進めていくかは、次年度以降の大きな課題である。それとともに、近代美術館・万代島美術館職員の「こんな使い方をしたい。」「あんなことができるようなデータベースにしてほしい。」という声に応えられるように改良を進めていきたい。

さらに、このデータベースの情報を何らかの形で県民や全国の美術愛好家等に伝えられるようにできればと思っている。

(新潟県立近代美術館 主任学芸員)

出品作品目録データ作成画面 1

※作成したい作品の「□選ぶ」の□をクリックしてください。
※選んだ作品のみ表示するときは、「「選ぶ」のみ表示」をクリック。
※選んだ作品をすべてクリアするときは、「「選ぶ」全クリア」をクリック。
(「□選ぶ」の×をクリックすると、選ばなくなります。)

トップへ　「出品作品目録データ作成用検索画面」へ　「選ぶ」のみ表示　「選ぶ」をクリア　「出品作品目録データ作成画面2」へ　「作品キャプション作成画面1」へ

	作品区分2	カード番号	作家名	作品名	画像1
☒選ぶ □選ばない	国内水彩	水彩画2	藤谷　虹児	阿蘭蛇船	
☒選ぶ □選ばない	国内水彩	水彩画3	藤谷　虹児	花火	
☒選ぶ □選ばない	国内彫刻	彫塑3	千野　茂	F嬢	
☒選ぶ □選ばない	国内彫刻	彫塑4	千野　茂	坐	

図8

出品作品目録データ作成画面2　EXELで出力する　出品作品目録データ作成画面1へ

作家名	作品名	技法	寸法	制作年
藤谷　虹児	阿蘭蛇船	水彩	32.1×41.1	1969年
藤谷　虹児	花火	水彩	29.4×20.8	1952年
千野　茂	F嬢	ブロンズ鋳造	46.2	1970年
千野　茂	坐		109.0×74.0×63.0	1968年

図9

図10